

平成27年度 田原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心や健やかな体を持ち、自ら考え、取り組み、判断し、
新しい時代を創造的に生きる児童を育成する。

- (1) かしくく ― よく考え がんばりぬく子ども
- (2) なかよく ― すなおで 思いやりのある子ども
- (3) 元気よく ― じゃぶで 明るい子ども

【今年度ががんばる4つのめあて】

- ・相手の気持ちを考えて行動しよう
- ・相手の目を見て大きな声であいさつ
- ・美しい日本語をたくさん使おう
- ・友だちと元気に外遊び

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

次代を担う児童一人一人が、社会的自立を果たして未来を創造的に生きていく力を身に付けることができるよう、教職員がそれぞれの持ち味を発揮しながら、家庭・地域と連携し、共に本校の教育を担う者として英知と熱意を結集することにより、一体感のある活力に満ちた教育活動を展開する。

児童の発達の段階や個人差に目を向けつつ、同時に、人としての成長は、望ましい集団の中で保障され、促進されることを重視し、常に「個」と「集団」の双方の視点を持ちながら、教育目標の達成を目指して、あるべき学校教育の姿を追求し続ける。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に・印を付ける。

(1) 児童一人一人が大切にされていると誰もが実感できる学校

「田原小は、児童一人一人を大切に、温かい雰囲気包まれている」と、児童・保護者・地域住民の誰もが実感できることが、学校に対する信頼感を生み、日々のさまざまな取組が教育的に意味をなす母体となる。

(2) 児童・教職員の双方にとって居心地の良い学校

優しさ（母性）と厳しさ（父性）のバランスの上に、「護られている感覚」や「伸び伸びと自分を表現できる安心感」が生まれ、「居心地の良さ」や「楽しさ」につながる。この点においては、児童・教職員とも同じである。

(3) 児童に内在する「育つ力」が十分に発揮される学校

～ 確かな学力、健康な体と体力、豊かな心と社会性の育成 ～

児童が生涯にわたって自分らしさを発揮しながら、社会的自立を果たし、充実した生活を送ることができるよう、発達著しい児童期に必要な学習や体験を十分に積ませる。個々の児童が持つ「育つ力」を引き出し、可能性の芽を膨らませていく。

(4) 家庭や地域と連携して教育効果を高める開かれた学校

教育資源として家庭・地域の活用を図り、活動の幅を広げることにより、教育効果を高める。地域のシンボリック的存在として、主体性を発揮しつつ、敷居を低くして積極的に地域に開いていくことが、地域に愛され、見守られる安全な学校環境づくりにもつながる。

(5) 教職員が連帯協働し、共に高め合いながら質の高い教育を提供する学校

教育活動の中核をなす授業や学級経営などについて、教職員が学年を超えてオープンに、日々の実践や指導上の悩みなどを語り合える雰囲気を大切にする。各教職員が、自由闊達に交流することが、和やかな学校の雰囲気を形成し、質の高い教育の提供に反映される。

(6) 校務を適正に処理し、組織として社会的責任を果たす学校

教育目標の達成に向けて、学校運営が滞りなく進行していくために、教職員一人一人が法令を遵守し、教育公務員としての自覚と使命感を持って、学校運営に係るさまざまな校務の処理を適正に行う。すべての教職員が、学校を代表する存在であることを常に念頭に置いて職務に当たる。

【田原地域学校園教育ビジョン】

自らすすんで何事にも取り組む子どもの育成

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に・印を付ける。

【学 校 運 営】

「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携し、地域の教育力を活用した教育活動を展開するとともに、積極的な情報発信と学校開放、地域との交流活動を通して、家庭や地域から信頼され、地域に開かれた学校づくりを推進する。

【学 習 指 導】

本校児童の学力の実態を踏まえながら、単元や本時の目標達成に向けて、わかる・できる・楽しい授業づくりを創意工夫することにより、知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力の育成を目指すとともに、学習のルールを守り、行動の切り替えが適切になされるよう繰り返し指導し、学びに向かう姿勢の定着化を図る。

【児 童 生 徒 指 導】

仲間と協力して行う活動や、言語・身体・作品等による自己表現を認め合う活動を通して、達成感や感動を共に分かち合う経験を重ね、児童相互の人間関係の強化を図るとともに、自他を認め、互いに支え合う心と、主体的に行動する態度を育てる。

【健康（保険安全・食育）・体力】

教科体育や体育的行事・活動において、発達の段階に応じた十分な運動量を確保し、体力の向上を目指すとともに、心身の健康の増進を図る。

また、持てる体力を出し切り、困難を乗り越える経験を積ませることにより、自己への自信を芽生えさせ、失敗を恐れずに物ごとにチャレンジする強い精神を培う。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に・印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
学 校 運 営 の 状 況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケートの「私は今の学校が好きです」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学校評価や学校行事の反省等を生かし、児童が生き生きと活動する教育活動を行い、活気のある学校づくりに努める。 ② 集会活動・体験活動などを工夫し、児童が生き生きと活動できるよう努める。 ・縦割り班活動の充実 ・外部講師等による体験活動の充実 ・児童集会・音楽集会の充実	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 91.2%で昨年度と同等で指標を上回っている。保護者は 93.4%、地域住民は 100%で、それぞれ高い肯定的回答を得ており、適切な教育活動の設定と実践が評価されたと考えられる。 【次年度の方針】 ・行事の反省等から適宜内容を検討し、検証したことをすぐ次に生かせるようなマネジメントサイクルを有効に活用し、児童が生き生きと活動できる教育活動を今後も推進していく。 ・今後も地域の特色を生かした体験活動や集会活動などを充実させ、達成感を味わわせていく。 ・児童の交友関係に目を向け、教育相談の機会を生かしたりなどして、より良い人間関係づくりに努める。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 全職員が学校経営に参画意識を持って、協力して教育に当たるように努める。 ② 児童一人一人をよく見取り、声をかけ、よく話を聞き、良いところは認め、指導すべき事はしっかり指導する。 ③ オープンスクール、授業参観や懇談会等の機会を通して、学校理解を深めるよう努力する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 97.6%で、指標を十分に上回っている。保護者や地域住民の肯定的回答は昨年より約 5%高くなり全校体制での指導力向上策が評価されたと考えられる。 【次年度の方針】 ・学習のルールを統一し、児童が学びに向かう姿勢の定着化と興味関心を喚起し、主体的に学習に取り組むことができる授業への工夫を継続していく。 ・オープンスクールや授業参観等を工夫していろいろな学習の様子を公開し、今まで以上に学校理解を深めていく。

<p>A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学校でのきまりを徹底するために「田原小のやくそく」や「よい子の一日」を提示し、教職員が共通理解の下、生活指導はもちろん、学習指導や日課等でも、きまりを守ることの大切さを繰り返し指導する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より肯定意見が 10%近く上がっている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「田原小のやくそく」「よい子の一日」を児童の生活の規範として、学校・家庭と共通理解のもとに指導を継続していく。
<p>A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 各教科で標準授業時数（文科省）を確保するとともに、「基礎学習の時間」において、漢字・計算・音読などを発達段階に応じて取り入れ、基礎的・基本的な内容の確実な定着が図れるよう努める。</p> <p>② 一人一授業公開を目標に、「わかる・できる・楽しい」授業の工夫に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は 94.4%で昨年度よりやや下がっている。 ・「田原っ子の学び」の共通理解のもとに授業進めてきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「田原っ子の学び」を継続していく。 ・漢字・計算・音読などを発達段階に応じて取り入れ、基礎的・基本的な内容の確実な定着が図れるよう努める。
<p>A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 年 4 回「いじめアンケート」を実施し結果をもとに担任が関係児童との教育相談を行い、解決を図る。解決が不十分な場合は、いじめ対策委員会による解決を図る。</p> <p>② 年 2 回の「いじめ根絶強化月間」に合わせ、標語・学級宣言文・個人の意見文を作成・掲示することにより、個々の児童の意識を高めるようにする。</p> <p>③ 「いじめのなかよし集会」を行うことにより、学校全体の意識を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員・児童とも「いじめは絶対に許されない行為」という認識がほぼ 100%に近い状態に高まっている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、学校の「いじめ問題」に対する取り組みを保護者にさらに積極的に伝え、家庭からの協力を得やすい環境を作っていく。
<p>A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私の学校生活や様々な活動は充実している」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 小中一貫教育の趣旨を踏まえ、<u>夏季休業中の授業実施や土曜授業、日課を工夫</u>することで授業時数を確保する。</p> <p>② 児童の主体的な活動や体験的な活動を取り入れ、行事ごとに評価を実施し改善を図るようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は 91.6%で、教科や行事で児童の主体的な活動や体験的な活動を取り入れてきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や昨年度の反省を基に、引き続き児童の主体的な活動や体験的な活動を取り入れていく。
<p>A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「オープンスクール」や授業参観等を学期に 2 日以上実施し、学校公開を保護者だけでなく、地域に向けても積極的に行う。</p> <p>② 学校だよりを毎月 1 回発行するとともに、ホームページを定期的に更新して、保護者や地域住民など多くの人に知らせる。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は 98.4%で昨年よりアップし、目標を十分に達成している。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加率を上げるため、オープンスクールや授業参観の日程や方法を工夫する。 ・行事だよりや保健だよりなどホームページにアップする内容を増やし、学校の様子をより多く伝えていく。

教育活動の状況		<p>A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携を強化し、学校・保護者・地域住民が一体となって、教育活動の充実と活性化を図る。</p> <p>② 授業ボランティア（地域の外部講師・街の先生）と連携した授業を計画的に実施し、その成果についても広く情報発信するよう努める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は 92%で、昨年度より 5%以上アップし、指標を達成することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年において授業ボランティアと連携した授業を計画的に行うことができた。ボランティアの活躍の様子を各種便りで伝え、多くのボランティアにお世話になっていることを保護者に紹介していく。 ・感謝の会へのボランティアの参加が増え、多くのボランティアの方に感謝の気持ちを伝えることができた。より気持ちが伝わる会になるよう感謝の会の内容を工夫していく。
		<p>A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 毎月、施設・設備の安全点検を実施し、修繕・補修を迅速に行い、学習にふさわしい環境づくりに努める。</p> <p>② トイレと水道周りは、常にきれいに維持できるように、使用法の徹底を図るとともに、清掃活動において重点的に指導する。</p>		<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は 96.2%で授業参観等での環境整備がなされていた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科の足りない備品を補充していく。（特に算数） ・毛筆の筆の洗い方やパレットの洗い方など共通理解して指導していく。 ・トイレ清掃のボランティアを火曜日でなく月曜日か木曜日をお願いしていけるとよい。（火曜日の昼休みの集会在清掃に食い込むことがあるため）
		<p>B 1 学校は、事故防止・安全対策に努めている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は事故防止や安全対策に積極的に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>③ 月1回の全校下校、毎日の学年下校、交通安全教室、不審者対応避難訓練を実施する。</p> <p>④ 家庭・地域との連絡体制（田原小安全対策連絡会による防犯パトロール・子ども110番の家・保護者、地域への情報提供）を継続し実施する。</p>		<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は 94.5%で昨年より 4%上昇した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回（火事と地震、不審者、竜巻）、避難訓練を実施できた。学区内において交通事故や不審者被害などがなく、安全・安心な環境に恵まれた。 ・緊急時の安全な避難が、担任だけでは難しくなっている。今後体制を見直していく。
	生活	<p>A 10 児童は、進んであいさつをしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① <u>地域学校園で毎月第2週をあいさつ週間とし</u>、その実施方法を工夫し、地域とも協力して基本的生活習慣の育成を図る。</p> <p>② 地域協議会と連携し、あいさつ標語を募集し、優秀作品を掲示するなどして、あいさつへの関心・意欲を高める。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・児童・保護者とも「あいさつ」に関する児童の意識が高まっている。しかし、地域住民の肯定的意見は低い。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭で習慣づいたあいさつを地域住民に対しても行えるようあいさつ運動をより活発に対象を広げていく。 ・保護者、地域の方にも模範として児童へ積極的にあいさつの言葉をかけていただくよう依頼する。 ・家庭内のあいさつの習慣づくりを呼びかける。
		<p>A 11 児童は、正しい言葉づかいをしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 気持ちよい言葉づかいや返事について共通理解を図るとともに、日常的な指導を繰り返し実施し、保護者にも協力を呼びかける。</p>		<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい言葉づかいをしていると肯定的意見が高まっている。特に保護者は 10%近く上がっている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員室入室時のあいさつ訓練や「美しい日本語使おう」と児童に呼びかけたことが大変効果があった。次年度も継続指導していきたい。

健康・体力	<p>A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 元気っ子健康体力チェックの結果などをもとに、定期的に重点運動を決めて、児童が目当てを持って運動に取り組めるようにする。</p> <p>② 体力や技能を向上させるための取り組みを、年間を通して実施する。 ・縄跳び、水泳、鉄棒の検定カードを活用する。</p> <p>③ たわらの時間や昼休みに外遊びを奨励する。遊び塾を通して異学年交流や遊びの種類を増やす。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 90.7%で昨年より4%上昇した。</p> <p>【次年度の方針】 ・たわらの時間には具合が悪くない限りは外に行くという約束が、ほぼ守られている。また、遊び塾があったり、7学年の先生方が率先して遊びに加わってくださったりしているので、遊びを楽しみにしている。来年度もこの取り組みを継続していく。 ・各種検定カードを目標に頑張る姿を見かける。来年度も継続していく。</p>
	<p>A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童(生徒)は、好き嫌いをなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 栄養職員と連携した食育に関する授業を計画的に取り入れる。</p> <p>② 給食便りを毎月1回発行し、栄養面を含め食育や健康に対する家庭の意識の高揚を図る。</p> <p>③ 家庭との連携を図り、食育の啓発に努めるとともに、「お弁当の日」の計画、実施を進める。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は75.1%で目標の80%は下まわったものの、児童、保護者、地域共に、昨年度より数ポイントずつ上昇している。</p> <p>【次年度の方針】 ・食に関する教育講演会を開催したり、外部の講演会への案内を行ったりする。 ・栄養職員とのTT授業をさらに進め、栄養や残菜への関心を深める。</p>
	<p>B3 児童は、自分の健康のために、手洗い・うがい・歯磨きを進んで行っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「自分は、健康のために、手洗い・うがい・歯磨きを進んで行っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 保健便りを発行し、健康な生活習慣を身につけるための情報発進をする。</p> <p>② たわらの時間や昼休みなどの外遊びの後、給食後の場面で、手洗い・うがい・歯磨きの励行を呼びかける。</p>	<p>【達成状況】 ・児童や教職員の肯定的回答が90%台に対し、保護者、地域が75%台である。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校に比べ家庭や地域での肯定率が低いのは、実際家庭での手洗い・うがいのできていないからと思われるので、保健便りや学年通信等で、協力を呼びかける。 ・長期の休み以外にも、うがいカレンダーや歯磨きカレンダーを時折実施して、意識を継続させる。</p>
学習	<p>A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 授業の準備を忘れず、休み時間のうちに用意する。</p> <p>② 1時間に一回発表を目標に授業に取り組ませる。</p> <p>③ 話し合い活動を積極的に取り入れる。</p> <p>④ 板書したことをきちんとノートに書き写したり、工夫してノートにまとめたりすることができるようにする。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は90%昨年より上がっている。</p> <p>・学び合いの場面でペア・グループ・全体での話し合いを行うことで、進んで意見が言えるようになってきている。</p> <p>【次年度の方針】 ・学び合いでの話し合いを継続指導する。 ・ノート指導をさらに充実させる。</p>
	<p>A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① チャイム着席をさせる。</p> <p>② 授業中の姿勢や話を聞くときの態度について指導する。(合言葉で意識づけを図る。 ・「足はぺったん・背中ピン・おなかと背中にグーひとつ」 ・「話をします」「目を見ます」</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は84.7%でやや上がっている。</p> <p>【次年度の方針】 ・姿勢の日などでよい姿勢への理解は進んでいるので、継続する。 ・落ち着いて学習しているのが、「聞くこと」が十分ではないので継続指導する。</p>

本校の特色・課題等	B 2 児童は、家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】全体アンケート「私は、宿題や自主学習を進んで行っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 毎日宿題を出す。 ② 自主学習の内容を指導する。 ③ 「家庭学習のすすめ」を通して家庭の理解・協力を得る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 85.9%で家庭学習が定着してきている。 【次年度の方針】 ・引き続き家庭の協力を得られるよう「家庭学習のすすめ」などを発行する。 ・自主学習の内容など個人差に合わせて指導する。
	B 4 本を読むことの楽しさや大切さがわかる。 【数値指標】全体アンケート「私は、進んで読書をしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 心穏やかに読む、静かな朝の読書（朝の活動）を週 2 回実施する。 ② ボランティアによる「読み聞かせ会」を学年・クラスごとに行うよう年間を通して計画し実施する。 ③ 親子読書を奨励する。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 81.1%で昨年度より上がっているが十分には達成できていない。 【次年度の方針】 ・月予定などに「家読」を入れるなどして家庭に定着させる。 ・親子読書を年 3 回実施する。 ・図書室の開館時間を増やす。（短い休み時間）
	B 5 地域の特色を生かした学習の充実を図ることにより、地域を愛する心が育っている。 【数値指標】全体アンケート「私は、地域や企業の人たちと一緒に、地域の自然や文化などについて学習をして、田原の地域のが好きになった」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 保護者・地域社会との連携を図り、体験活動を重視した地域の特色を生かした学習などを実施し郷土愛の育成を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 88%で昨年度より上がっている。 【次年度の方針】 ・引き続き、保護者・地域社会との連携を図り、体験活動を重視した地域の特色を生かした学習などを実施し、郷土愛の育成を図っていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に・印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営部会】

- ・「かしこく、なかよく、元気よく」を具体目標とし、それを実現するための児童の行動目標として「今年度ががんばる 4 つのめあて ・相手の気持ちを考えて行動しよう ・相手の目を見て大きな声であいさつ ・美しい日本語をたくさん使おう ・友だちと元気に外遊び」を設定し、児童に常に意識させ、教職員の共通理解のもと全校体制で取り組んだ。児童アンケートではこれらについて改善が見られた。しかし保護者・地域住民のアンケートではまだまだ肯定的回答は低いので、これからも「今年度ががんばる 4 つのめあて」を児童に意識させて、自分で判断し行動できる児童を育てていく。
- ・教職員の学力向上の取り組み、指導の工夫・改善、わかりやすい授業や個別の指導に対する取り組み、自主学習の定着に関する取り組みや努力については、保護者の理解が深まってきている。授業参観を始めとして、講演会・学校便り・学年便り等の各種便りやホームページ等で、積極的に発信してきた結果と思われる。今後も、分かりやすい授業・児童が主体的に取り組む授業の定着を図り、児童の変容・学力の向上を図ることで、保護者の理解が深まるよう努力を継続したい。
- ・本校では、「開かれた学校」・「地域の学校」という観点から、オープンスクールや授業参観・学校行事の公開等、様々な情報発信・提供を積極的に行ってきたが、その結果、保護者からの肯定的回答が 98.4%という高い評価を得ることができた。しかし、地域住民からの肯定的回答が 88.2%と若干低いため、地域の方の興味をひく行事や便りを工夫する必要がある。
- ・8 年目を迎えた「魅力ある学校づくり地域協議会」の活動内容が充実しており、保護者や地域住民にもこの協議会の認知度が高まってきている。しかし、講演会・講座への参加者が少なく、内容・日程を吟味する必要がある。今年度は、「宮っこステーション」が立ち上がって 5 年目を迎え、「放課後子ども教室」の運営も軌道に乗り、充実した活動が展開されてきた。今後活動を継続していくためには、コーディネーター・安全管理者の確保が急務であり、各種便りや学級懇談会等でさらに周知していくことが必要である。
- ・小中一貫教育に関連して、田原中・田原西小学校と相互理解・連携を図り、効果的な活動を精選していく必要があると強く感じている。

【児童指導部会】

- ・きまりやマナーについては、守って生活していると認識している児童・教員・保護者とも増えている。引き続き「田原小のやくそく」「よい子の一日」を児童の生活の規範として、学校・家庭と共通理解のもとに指導を継続していく。
- ・学校・児童・保護者とも「あいさつ」に関する児童の意識が高まっている。来年度は、学校や家庭で習慣づいたあいさつを地域住民に対しても行えるようあいさつ運動をより活発に対象を広げていく。
- ・正しい言葉づかいをしていると肯定的意見が高まっている。特に保護者の認識が高まっている。職員室入室時のあいさつ訓練や「美しい日本語を使おう」と児童に呼びかけたことが大変効果があったので継続指導していきたい。
- ・教師・児童とも「いじめは絶対に許されない行為」とあるという認識がほぼ 100%まで高まっている。今後は、学校の「いじめ問題」に対する取り組みを保護者にさらに積極的に伝え、家庭からの協力を得やすい環境を作っていきたい。

【学習指導部会】

- ・授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれると考える児童が多いが、今後も分かりやすい授業を実践し、授業参観やオープンスクール等でも公開していく。また、宿題やテスト・プリント・ドリル等を活用してきめ細かな指導を行い、学習効果が上がるようにしていく。
- ・学校生活での生活や様々な活動が充実していると感じている児童が多い。反省を元に児童の主体的な活動や体験的な活動を取り入れていく。
- ・校内は、学習にふさわしい環境となっているので、今後も、機動班やボランティアとの連携を図りながら、学習にふさわしい潤いのある環境づくりに努めていく。また各学級で、清掃の仕方やトイレの使用法についても継続指導を行っていく。
- ・進んで話し合ったりわかりやすく発表したりするなど、積極的に学習に取り組んでいると考える児童が多い。さらに「田原っ子の学び」や「話し合いのやくそく」などを共通理解し、自分の考えを分かりやすくノートにまとめる活動や言語環境を充実させて、話し合いや学び合いを深めていく必要がある。
- ・落ち着いて学習に取り組んでいると考える児童が多いので、「学習のきまり」の指導を継続する。特に「話を聞くとき」の意識付けのために姿勢の日や機動班に依頼しての机と椅子の高さのこまめな調節するなどを継続する。
- ・進んで読書をしていると考える児童や保護者が昨年度より増えているが十分ではない。読書量については個人差が大きい。図書室を利用しやすいように10分間の休み時間にも図書室を開く方向で計画していく。朝の読書や、隙間読書は楽しく行っているため、学校で読むだけでなく家庭にも持ち帰り読書をする習慣をつけたい。そのために第3金曜日を家読の日と家庭にも呼びかけ、保護者と共に読書をする時間を設けたり、親子読書の機会も年3回設けたい。学級文庫を充実させたりボランティアの方々による読み聞かせを継続して実施したりしていく。
- ・地域の特色を生かした学習の充実を図ることにより、地域を愛する心が育っている。保護者や学校支援ボランティアの授業支援を得て成果が上がった。次年度への引き継ぎを行い、年間の見通しを立てて実施できるとよい。児童にもたくさんの方々にお世話になっていることを感謝できるようにしていく。

【健康指導部会】

- ・「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である。」は、保護者と教職員は95%以上、地域住民と児童も85%以上の高評価。各学年の資料室、昇降口などが昨年より整理整頓されている。
- ・「学校は、事故防止や安全対策に積極的に取り組んでいる」では、児童、教職員、保護者、地域住民すべてにおいて概ね95%以上とかなり高い評価を得ている。しかもそれぞれが昨年より数ポイントずつ上昇している。「なかよしあいさつ週間」では、担当の先生方が通学路に立ったり、全校下校の際の一斉指導・警察の方の指導の様子が保護者や地域住民の方に直接伝わったりしたことが高い評価につながったと思われる。
- ・「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している。」では、外遊びを教職員が一丸となって根気強く声かけをしてきたことや、なかよし班による遊び塾や7学年の先生方の積極的な遊びへの関わり等の成果の表れであろう。
- ・「児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。」では、3年前から、各種検定表を作成し、体育科の授業・休み時間・放課後の活動等で継続的に取り組めるよう計画を立ててきた。具体的な目標が定まったことで、児童が目あてをもって運動に積極的に取り組んだりする機会が増えた。
- ・「好き嫌いなく給食を食べている。」では、肯定率が教師が92%から5ポイントダウンしたものの、他の3者は70%台ながら数ポイントずつ上昇した。家庭の肯定率が最も低いのは、家庭で好き嫌いをしている姿を見ての結果と思われるので、今後も懇談会や通信などで家庭と連携していく。栄養士とITで栄養指導をすることは、今後さらに深めていきたい。
- ・「自分の健康のために、手洗い・うがい・歯磨きを進んで行っている。」では、教職員と児童がどちらも90%以上の肯定率であるのに対し、家庭や地域が75%台であることから、学校ではできて家庭ではあまり実践されていないことが予想される。保護者への協力を仰ぐことも大切と考える。

6 学校関係者評価

◇ 学校教育全般（学校運営面）

- ・学校経営の理念が確立している。主役である子どもたちが、教職員の日常的に前向きに学習指導する姿勢を肌で感じている様子が各所でうかがえる。
- ・教職員・地域・保護者が協力しながら授業や校外活動に参加している。児童はいろいろな体験活動ができ、充実している。これから先、協力してくれる方々が減ってしまっても、同じような体験活動ができなくなるのではないかと心配である。
- ・オープンスクール等で地域住民が参観しやすいテーマがあると、地域の参加者が増え、地域とともにある学校づくりにつながっていく。
- ・学校運営や行事等をホームページで発信しているが、地域の方にホームページの見方やアドレスを折に触れて知らせると関心を示していただき、更にボランティア等での協力が得られる。また、授業ボランティア・放課後子ども教室の安全管理者の募集等を必要に応じて地域に発信すると、得意な人、時間がとれる人の協力が得られる。
- ・クラス・学年を超えて共通理解のもと統一した児童指導・学習指導がなされている。先生個々の特有のルールがなくなり児童は混乱しなくなった。
- ・ホームページの更新が少ない。日々の小さなことで更新してほしい。

◇ 児童の様子全般（生活の様子、あいさつや言葉遣い等）について

- ・あいさつに関する児童の意識が高まっているが、地域住民の肯定的回答割合が低いので、地域の人たちへ積極的にあいさ

- つをしていけるとよい。しかし、子どもたちと接している限りでは、そんなに悪くないと思っていたので、意外であった。
- ・登校の見守りをしているが、あいさつができる子とできない子に分かれている。学校内ではしっかりできているようだ。地域でもあいさつができるよう、家庭・地域が一体となって声かけをしていくとよい。
 - ・あいさつは児童からしてもらうのを待つのではなく、地域側からもあいさつの言葉かけをするようにしたい。
 - ・家庭の言葉遣いがよくなった。職員室の入り方の指導で正しい話し方が分かったのではないかな。これがよいあいさつにつながっている。電話の話し方もよくなった。
 - ・言葉遣いは高学年になるにつれて荒く感じるが、指導すると素直に直す姿が見られる。
 - ・いじめ対策の肯定的回答割合が上がっている。教職員が自信をもって指導していることがうかがえる。児童が安心して学校に行けることは本当によい。
 - ・あいさつと言葉遣いは影響し合うと思う。心も落ち着いて、学校生活に落ち着きを感じられる。
 - ・社会人として「自立」へ進化する過程で、いかに家庭・地域・学校がサポートすべきかを常に考慮しながら、最終目的の年齢にふさわしい自己決定・自分の気持ちを抑える自律・助けを求められる共助などを学べる環境になっている。

◇ 児童の安全・健康・体力面について

- ・給食の好き嫌いに関する肯定的回答の割合が少ないのが残念。体づくりの大切な時期であり、家庭に食に関する協力を呼びかけたり、食に関する工夫や調理講習会等を親学に取り入れたりして、保護者の協力を得ることが必要になる。
- ・健康について、栄養の大切さを家族で話し合うことが必要と思う。好き嫌いの問題ではない。専門の栄養士さん、調理員さんの苦勞・努力を児童が分かってほしい。
- ・子どもが安心して安全に主体性を発揮できる活動の場（居場所）に対する配慮が見受けられる。子ども本人が主観的に学校を居場所と思い、ありのままを受け入れてくれる人間関係があり、ほっとする空間づくりが校長室から発信されている。

◇ 学習面について

- ・授業中の話を聞くときの姿勢・態度は以前よりよくなっている。楽しい授業になれば落ち着いて話を聞く態度になるのではないだろうか。
- ・全校一斉の自主学習の取り組みが始まって、自分から勉強することが多くなった。同じことを繰り返さず、自主学習の内容を工夫することができるようになってきた。
- ・引き続き地域の特色を生かした学習を取り入れてほしい。田原地区には、素晴らしい文化があるので継承する意味はある。また、指導者としても素晴らしい方がいる。
- ・生活の落ち着きが学習面でもよい影響を与えている様子がうかがわれる。ただし読書に関しては、教職員と児童の肯定的回答の割合にギャップがあるので、検証が必要になる。「家読の日」は面白い取り組みである。
- ・読書について児童の肯定的割合は上がっているのに、保護者は下がっている。年齢にふさわしくない本を選んでいるのだろうか。好きな本を読んで、みんなの前で紹介する取り組み等が必要ではないか。読書感想文につながる。
- ・読み聞かせで子どもたちが真剣に聞いてくれるので感心している。田原小の子どもたちは素直で、学級は落ち着いた雰囲気勉強するにはよい環境になっている。
- ・成長過程に、好きな人（先生）・説教する人ではなく心配してくれる人（家庭・地域）のいる学習環境で学んでいる。今後もしそういう人に何人出会えるかで、その人の人生が充実するものと思うので、今の学習環境を継続していくことが必要と感じる。

◇ 総合的な評価に関すること

- ・学校・地域・保護者との連携、先生との外遊びなど、のびのびと心の教育ができていると思う。恵まれた先生と環境に感謝する。
- ・先生と児童の関係が素晴らしく、地域の力もよく結束していて良好な関係ができている。
- ・的確な評価ができていると思う。
- ・今年のめあての一つの「美しい日本語をたくさん使おう」は、人格と知識のバランスよい成長を図る基礎づくりをしっかり行っていくことが、小学校の役割と感じているので、効果を期待する。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

◇ 学校教育全般（学校運営面）

- ・学校関係者評価では、総合的な評価として概ねよいとの評価をいただいた。アンケート結果で、教職員・児童と保護者・地域住民のギャップが大きい項目について、学校だよりやホームページをはじめ、各種便りの発行、授業参観後の懇談会、魅力ある学校づくり地域協議会等において学校の意図を説明し、協力を求めている。
- ・魅力ある学校づくり地域協議会と協力しながら、地域の教育力を活用した教育活動を今後も推進するとともに、地域の方々に学校の様々な情報を発信したり、学校と関わっていただけるような機会を設けたり、児童が地域の文化・自然・産業と積極的に関わったりするなどして、今後とも「開かれた学校づくり」をめざす。
- ・ホームページの更新に関しては、日々の活動の様子をアップするひな型をつくり、更新手続きも明確にして、担任が負担感なくアップできる仕組みをつくる。

◇ 児童の様子全般（生活の様子、あいさつや言葉づかい等）

- ・あいさつに関しては、あいさつ運動で児童会中心の活動を推進するとともに、学級活動であいさつの大切さについて指導を行う。登下校中に交通指導員さんや安全パトロールの方・保護者の方などには積極的にあいさつをすること、地域に出たときは、あいさつされたら必ず返すことを定着させる。また、PTAの会議や魅力ある学校づくり地域協議会などで、児童からのあいさつを待つのではなく、地域の方から積極的にあいさつの手本を見せていただくよう協力を依頼する。
- ・言葉遣いに関しては、今年度と同じように学校生活での場面を限定して、その場面での正しい言葉遣いを教えて、徹底させる。それが定着することによって、いろいろな場面での波及効果が期待できる。

◇ 児童の安全・健康・体力面

- ・給食の好き嫌いに関しては、学級活動で学校栄養士とチーム・ティーチングでの食育の授業を行い、児童の啓発を図る。それを授業参観、オープンスクール等で公開したり、食育だより等で情報提供を行ったりして、保護者の協力を求めている。
- 給食の好き嫌いにも関係しているが、本校は肥満傾向の児童が多い。今年度同様に各種検定の実施や外遊びを奨励し、運動習慣を保持するとともに、保健・食育の観点から肥満解消を地域学校園の共通のテーマとして取り組んでいく。

◇ 学習面

- ・「児童は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している。」の児童の肯定的回答率が、今年度は90%と昨年より10ポイント上がった。今年度、児童の学び合いを重視した授業を推進してきた成果もあると思うが、「学習のきまり」の指導により授業規律が確立し、落ち着いた学習環境の中で、安心して発言できるようになってきたと思われる。来年度も継続し落ち着いた学習環境を整えていく。
- ・今年度、全校体制でスタートした自主学習の取り組みは、保護者の方の協力もあり定着しつつある。習慣化できるように来年度はさらに強化していく。

○読書指導については、地域学校園での連携を図り、図書館司書を中心に、読書内容にも目を向け、読み聞かせ・図書館ボランティアさん等との連携をいっそう深め、さらに、今年度以上の読書活動の充実を図っていくようにする。